

「子ども条例と子どもの育ちについて」アンケート実施報告

健康福祉部子ども・家庭局子どもの育ち推進課

平成23年4月に三重県子ども条例が施行されたことをうけ、e-モニターの皆さんにご参加いただき、「子ども条例と子どもの育ち」についてのアンケートを実施しましたので、その結果をお知らせします。

アンケートにご協力くださったe-モニターの皆さん、ありがとうございました。

【アンケート概要】

1 アンケート実施期間

平成25年8月21日から平成25年9月17日まで

2 意見募集の結果

対象者数 1193人

回答者数 842人（回答率70.5%）

3 回答者の属性

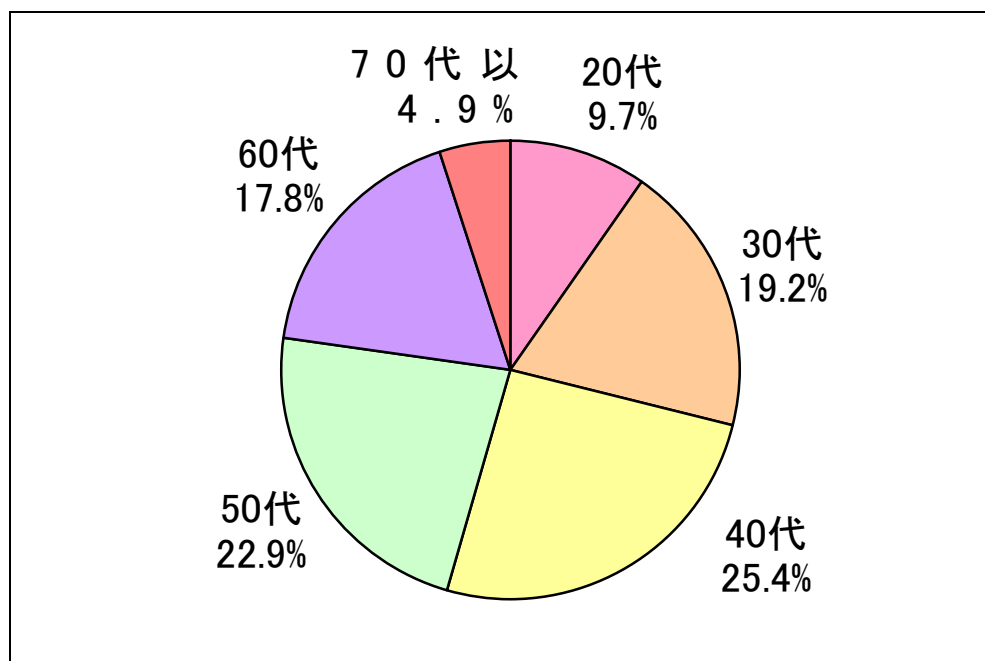
（1）性別

男性469人（55.7%） 女性373人（44.3%）

（2）年代

20代82人 30代162人 40代214人 50代193人

60代150人 70代以上41人



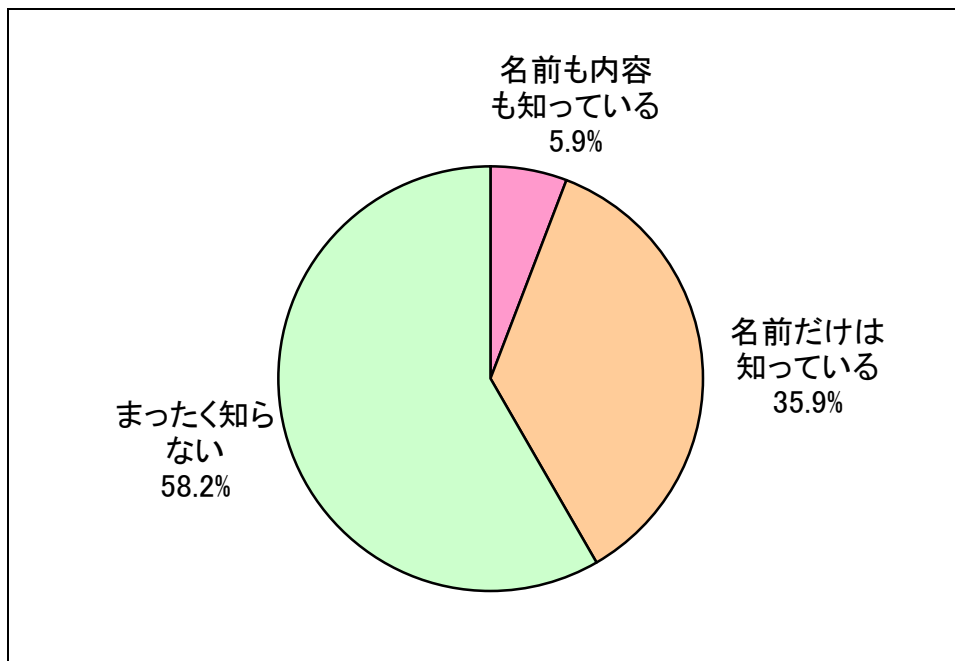
【アンケート結果】

Q1 子ども条例について

あなたは、「三重県子ども条例」のことを知っていますか？

条例について「名前も内容も知っている」が5.9%、「名前だけは知っている」が35.9%、計41.8%の方が、「知っている」と回答しました。

一方、「まったく知らない」が半数以上の58.2%で、今後もひきつづき条例を皆さんに知ってもらう取り組みが必要です。

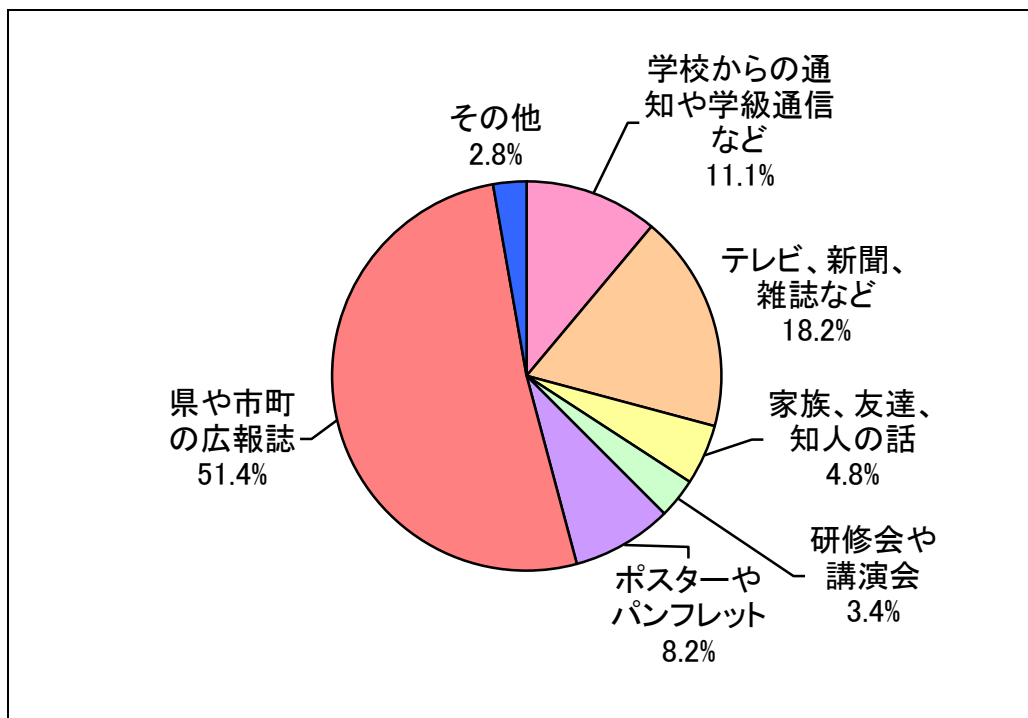


Q2 子ども条例を知ったきっかけ

Q1で「名前も内容も知っている」「名前だけは知っている」と答えた人にお聞きします。次のうち、あなたが子ども条例を知ったきっかけとなったものを1つ選んでください。

条例を知ったきっかけは、「県や市町の広報誌」が半数以上と最も多く、次に「テレビ、新聞、雑誌など」でした。

「その他」としては、インターネットや民生委員児童委員の講演会、職場という回答がありました。



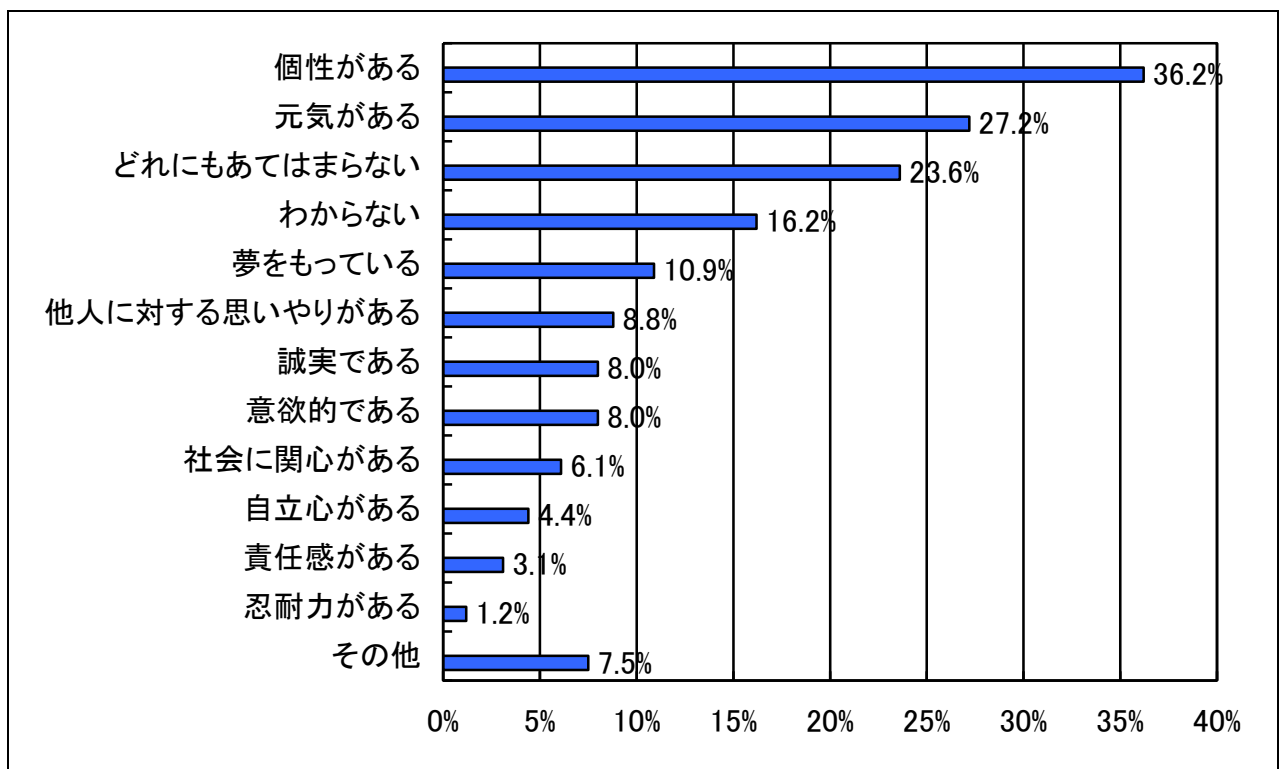
Q3 今の子どもたち

一般的に、今の子どもたちには、どんな特徴があると感じますか。あてはまるものをすべて選んでください。(複数回答)

もっとも多かったのは、「個性がある」(36.2%)で、次に「元気がある」(27.2%)、「どれにもあてはまらない」(23.6%)でした。もっとも低かったのは、「忍耐力がある」(1.2%)でした。

「どれにもあてはまらない」を選んだのは回答の中では上位にありますが、これは選択肢がすべてプラスの項目なので、そのいずれにも該当しないことから選ばれたものとみられます。さらに、「その他」を選んだ7.5%の方から、マイナスのイメージが寄せられました。その答えとしては、「無関心、無責任」(4人)、「ゲームや携帯に依存」(4人)、「自己中心的」(3人)、「外で遊ばない」(3人)などの意見がありました。

肯定的なイメージである回答を選んだのは、最大で4割弱であり、子どもに対する良いイメージは低調でした。

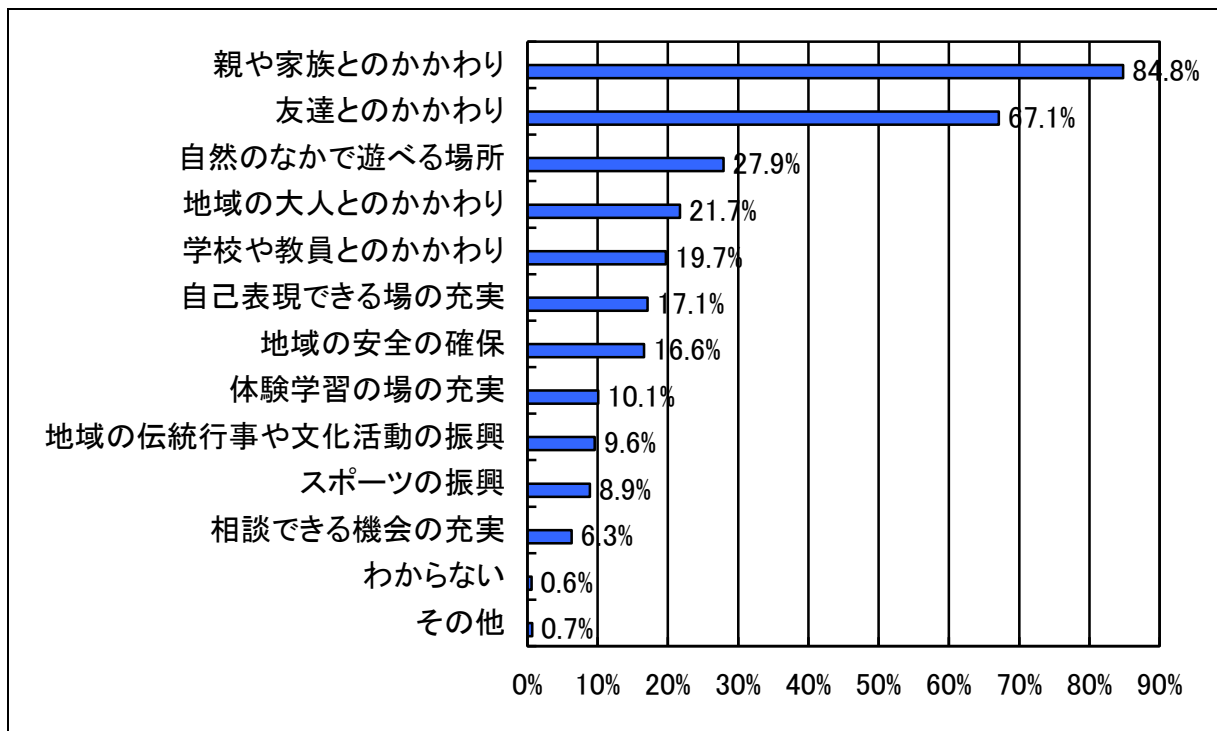


Q4 子どもの育ちに重要なこと

子どもがいきいきと育つために、特に重要だと思うものを3つ選んでください。

「親や家族とのかかわり」を選んだ人がもっとも多く、84.8%、次に、「友達とのかかわり」が67.1%と続いており、これら上位2つが他の項目よりも多く選ばれており、皆さんが人との関わりを重要と考えていることがわかります。

「その他」としては、愛情やいつくしみ、夢を持てるような社会、日本人としての自信などでした。



Q5 保護者の役割

子どもがいきいきと育つために、親や保護者の役割として大切だと思うものを3つ選んでください。

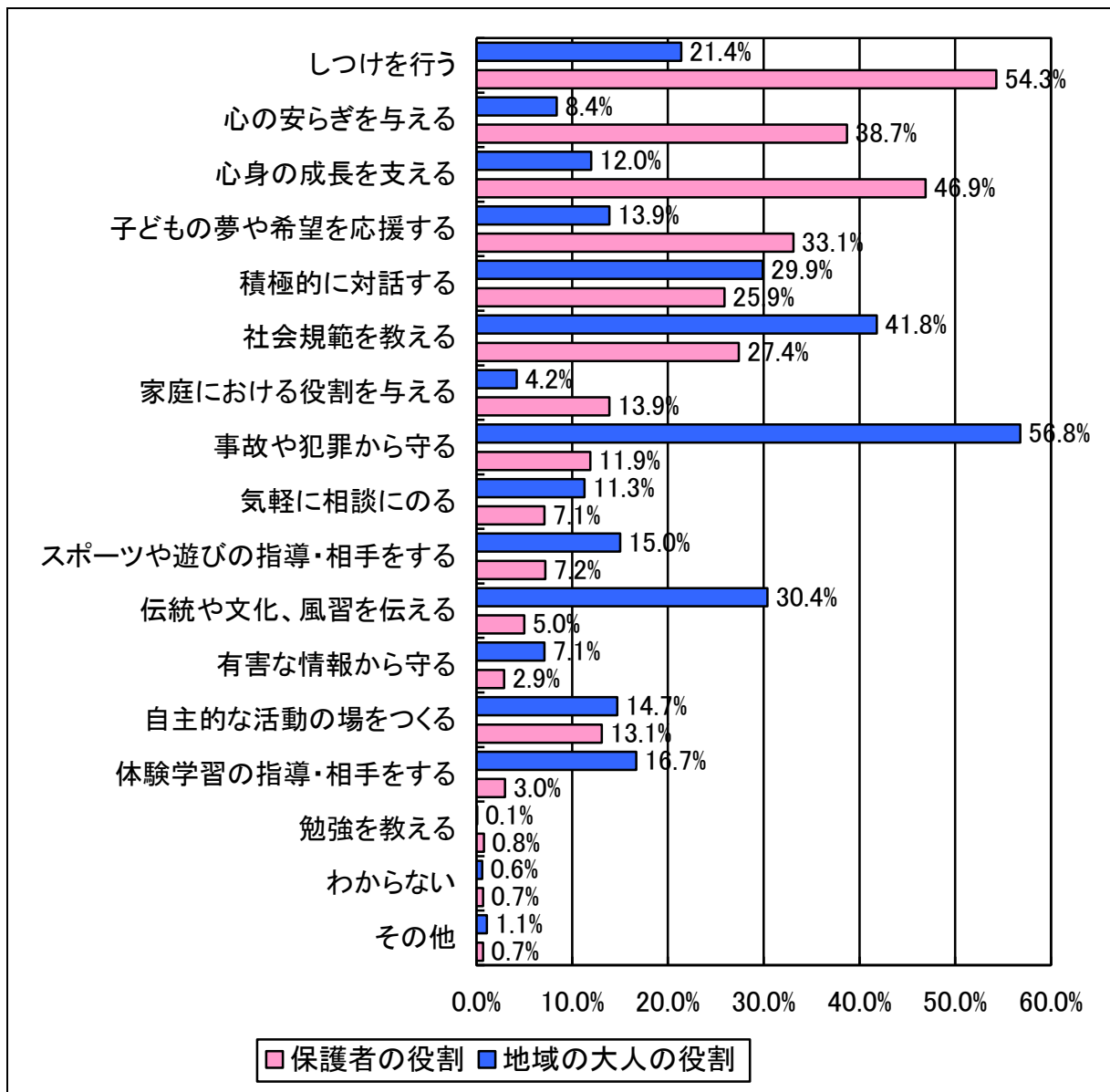
Q6 地域の大人の役割

子どもがいきいきと育つために、地域の大人の役割として、大切だと思うものを3つ選んでください。

同じ選択肢を用いて、保護者の役割と地域の大人の役割についての意識をたずねました。

保護者の役割であると認識されているのは、「しつけを行う」54.3%、「心身の成長を支える」46.9%、「心の安らぎを与える」38.7%です。

地域の大人の役割としては、「事故や犯罪から守る」56.8%、「社会規範を教える」41.8%、「伝統や文化、風習を伝える」30.4%でした。

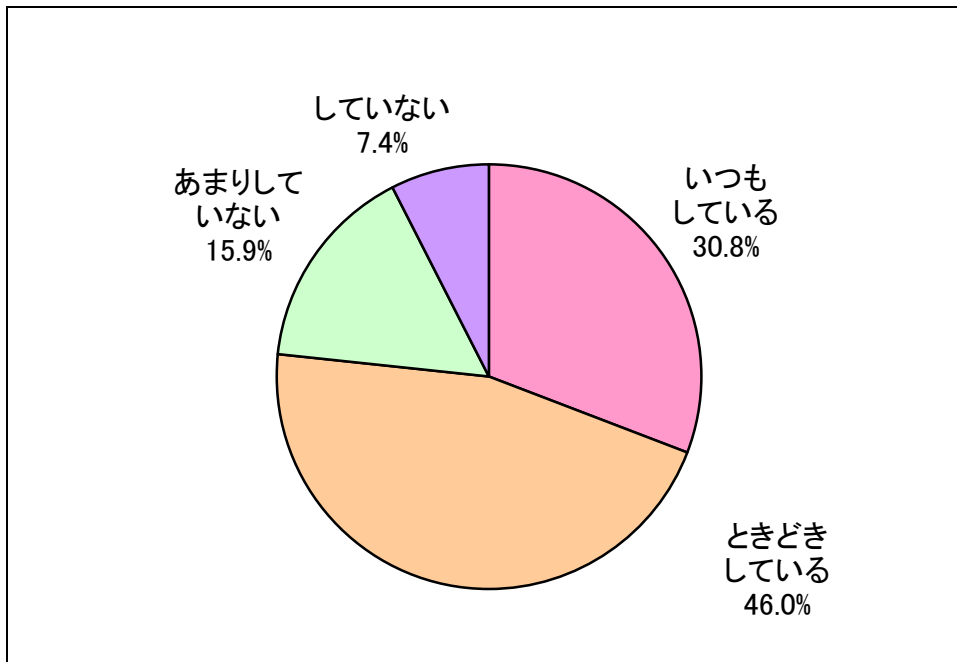


Q7 あいさつ

あなたは近所の子どもとあいさつをしていますか。

「いつもしている」「ときどきしている」の合計で76.8%という多くの方が、子どもとあいさつを交わしており、心強い結果となりました。

なお、後述のQ10自由回答の中には、近所に子どもがいないと記されたものがあり、「挨拶をしていない」人の中には、挨拶する相手がいない状況が含まれていると考えられます。



Q8 参加したことがある活動

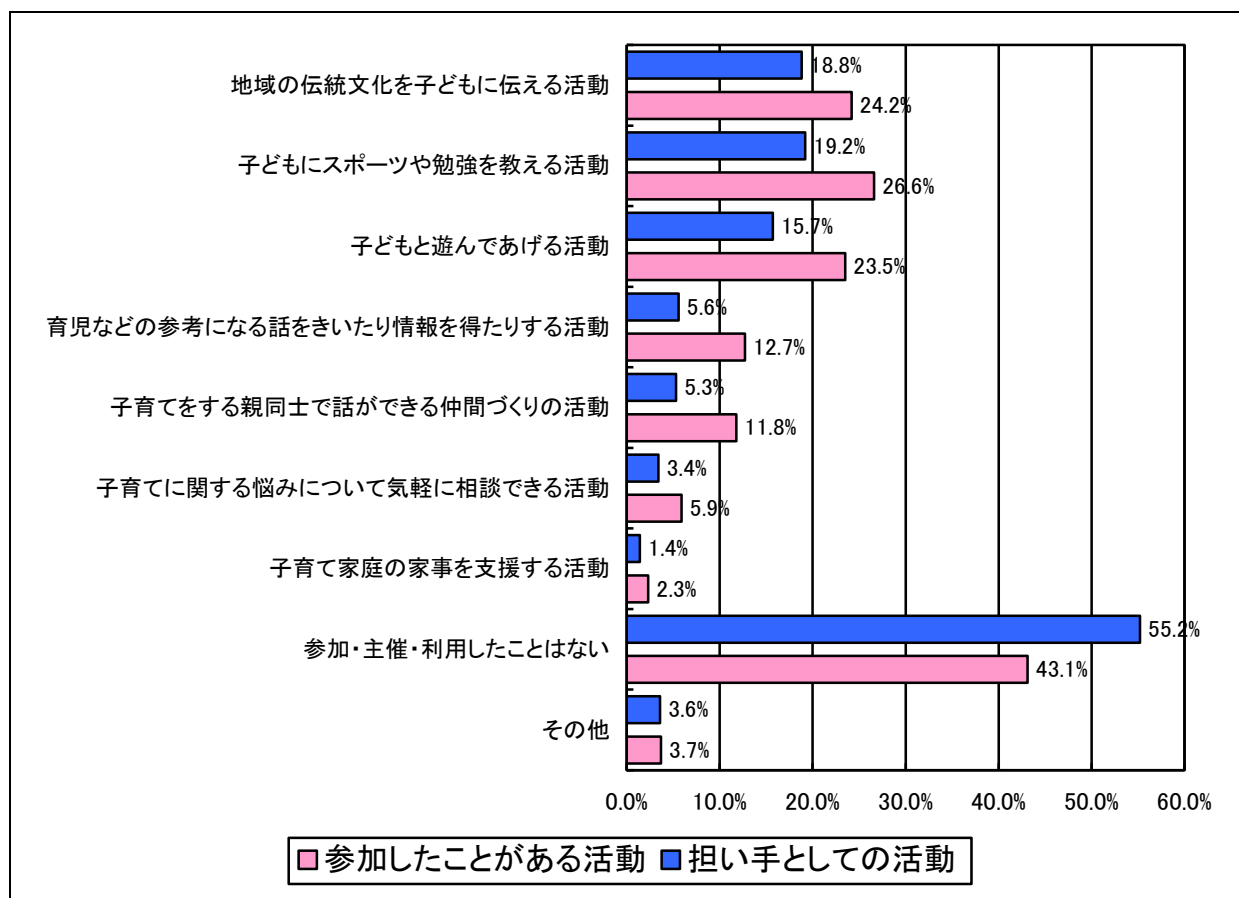
地域社会における、子どもや子育てに関する活動にあなたや子どもが参加したり、利用したりしたことがある活動について、あてはまるものをすべて選んでください。

Q9 担い手としての活動

地域社会における子どもや子育てに関する以下の活動について、その活動の担い手として、主催・参加したことがあるものについて、あてはまるものをすべて選んでください。

Q9 担い手としてどんな活動をしたことがあるか、については、もっとも多かったのが、「子どもにスポーツや勉強を教える活動」19.2%でした。次に「地域の伝統文化を子どもに伝える活動」18.8%、「子どもと遊んであげる活動」15.7%でした。

Q8とQ9において、「参加・利用したことがない」かつ「活動したことがない」人は、328人(38.9%)でした。年代別では、20代：58.5%、30代：48.1%、40代：30.3%、50代：31.6%、60代：41.3%、70代以上：34.1%であり、40代がもっとも、地域社会での子育て支援活動等に参加・利用したり、活動の担い手となったりしています。



Q10 心がけていること

子どもがいきいきと育つために、あなたが心がけていたり、心がけようと思ったりすることがあれば、おきかせください。(自由回答)

皆さんが心がけていることとして、420件のご回答をいただきました。その回答の内容の主旨を13に分類した結果を多いものから紹介すると次のとおりでした。(回答にはいくつかの要素が含まれているので、合計件数が多くなります。)

1 : 「対話する・傾聴する」100件

具体例 ○家庭が安らぎの場であるように、できるだけ対話を心がけている。

2 : 「挨拶をする」90件

具体例 ○いつも元気に挨拶すること！！

3 : 「見守り支える・観察する」72件

具体例 ○危険をさけながらも自主性が育つよう見守りたい。

4 : 「ルールを教える・しつけ・悪いことは注意する」69件

具体例 ○子どもの心を育てることが第一だと思います。子どもの気持ちに寄り添って、いけないことは、いけないと教えています。

5 : 「体験させる(遊び、他人との関わり)」50件

具体例 ○子どもが自ら物事を決める機会を増やす

6 : 「一緒に過ごす・スキンシップ」45件

具体例 ○物より思い出をモットーにしている。

7 : 「尊重する・対等に扱う」41件

具体例 ○子どもの目線になって一緒に考える。子どもだから親だからという目線でなく一個人として向き合う

8 : 「やりたいことを応援する」39件

具体例 ○子どもが興味を示すものに関心を寄せ応援する。

9 : 「生活環境整備(良好な家庭環境、地域とのつながり、遊べる環境)」38件

具体例 ○子どもが笑顔でいれるように、母親もなるべくストレスを溜めないように心がけています。

10 : 「まずは大人が見本となる行動を示す」35件

具体例 ○親の社会性の成長を促すことや、親としての責任を自覚させること。

11 : 「地域の活動に参加する」31件

具体例 ○自分には子どもがいないので余りこの様な活動に参加できないのが残念です。親子限定と記されていると別世界になってしまいます。このような人間にも子どもに触れ合える機会があるといいです。

12、「ほめる」15件

具体例 ○お手伝いをしてくれた時には少々オーバー目に感謝の意を表します。

13、「他人の子育て支援」13件

具体例 ○親のストレスや負担を減らす声かけやお手伝いを出来る範囲でしていきたいと思えます。

いただいた回答の多くは、子どもの「自己肯定感」を高めるものと考えられます。

「対話する・傾聴する」と回答した方は、同時に「見守り支える」ことを子どもに対して行っているという意見が多数ありました。

挨拶についての回答の中で、犯罪に疑われたり警戒されたりするため「挨拶や声かけをしにくい」という回答もありました。